

2022年6月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位:%)

大 阪 店	+9.8	立 川 店	+7.1
堺 店	△3.7	大 宮 店	+2.7
京 都 店 ※	+11.7	柏 店 ※	+1.2
泉 北 店	△2.8	(株)高島屋各店計	+13.5
日 本 橋 店	+12.7	岡 山 高 島 屋	+13.4
横 浜 店 ※	+12.7	岐 阜 高 島 屋	△20.0
新 宿 店	+51.0	高 崎 高 島 屋	+5.2
玉 川 店	+3.7	(株)高島屋各店 および 国内百貨店子会社計	+12.3

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総売上高)で開示しております。

※ 京都店は「洛西店」、横浜店は「タカシマヤ フードメゾン 新横浜店」、柏店は「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高をそれぞれ含みます。

■ 概況

○ 6月度の店頭売上は、前年度の一部店舗における生活必需品売場を除いた休業の反動や、外出機会の増加による消費行動の活性化に加え、高額品が引き続き好調に推移したことから、前年実績を上回りました。

店頭売上	前年比 +12.3%	2019年比 △5.3%
免税売上	前年比 +73.1%	2019年比 △72.0%
免税を除いた店頭売上	前年比 +11.5%	2019年比 △0.5%

○ 店舗別売上では、大阪店、京都店、日本橋店、横浜店、新宿店、玉川店、立川店、大宮店、柏店、岡山店、高崎店が前年実績を上回りました。新宿店は大口計上があり前年比+51.0%となりました。

岐阜店は大口計上の反動により前年を下回りました。

○ 商品別売上(当社分類による15店舗ベース)では、紳士服、紳士雑貨、婦人服、婦人雑貨、特選、宝飾品、呉服、スポーツ、美術、食料品などが前年実績を上回りました。

※前年度の店舗別休業日数(生活必需品売場を除く):大阪店、堺店、京都店、泉北店、日本橋店、新宿店、玉川店、立川店 各6日間